

研究機関：広島大学

研究課題名	特発性と抗アミノアシル tRNA 合成酵素 (ARS) 抗体陽性の非特異性間質性肺炎 (NSIP) における臨床的特徴の検討
研究責任者名	広島大学大学院医歯薬保健学研究科分子内科学 教授 服部 登
研究期間	2018年5月7日(倫理委員会承認後)～2020年3月
対象者	2000年1月から2017年12月までに当院を受診し、外科的肺生検で非特異性間質性肺炎 (NSIP) と診断あるいは高分解能 CT で NSIP パターンをみとめる患者さん
意義・目的	抗アミノアシル tRNA 合成酵素 (ARS) 抗体は、皮膚筋炎・多発筋炎で最も高頻度に検出される筋炎特異的自己抗体であり、これまでに8種類 (抗 Jo-1・PL-7・PL-12・EJ・OJ・KS・Zo・Ha 抗体) が報告されています。抗 ARS 抗体陽性例では、筋炎 (78-91%) の他、間質性肺炎 (90%)、多関節炎 (64-83%) を高頻度に認め、抗 ARS 抗体症候群と呼ばれています。2014年1月に、抗 Jo-1・EJ・PL-7・PL-12・KS の5種類の抗 ARS 抗体を単一の酵素免疫測定法 (ELISA) キットで測定する「MESACUP™ anti-ARS テスト」が保険収載され、当院においても抗 ARS 抗体症候群と診断される症例が増加していますが、その臨床像は未だ不明な点も多く、治療法も確立されていません。抗 ARS 抗体陽性の間質性肺炎は、ステロイド薬や免疫抑制薬が有効で、比較的予後が良好であることが報告されており、特発性間質性肺炎において抗 ARS 抗体の有無は重要な意味を持ちます。以上の背景から、抗 ARS 抗体陽性間質性肺炎の臨床的特徴を明らかにする目的で、本研究を立案しました。
方法	本研究は、診療録 (カルテ) 情報を調査して行います。 カルテから使用する内容は、患者背景、血液検査所見、呼吸機能、気管支鏡検査所見、臨床経過です。(個人を特定可能な情報は解析に用いません)
共同研究機関	ありません
試料・情報の管理責任者	広島大学 教授 服部登
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel : 082-257-5196 広島大学病院呼吸器内科 助教 益田 武